

2014年3月期第4四半期決算説明 質疑応答

1. 日時：2014年5月7日（水） 16:30～17:30
2. 場所：コンファレンスホール
3. 当社側説明者：代表取締役副社長執行役員 CFO 岡田 譲治
執行役員 CFO 補佐兼経理部長 松原 圭吾
IR 部長 野瀬 道広

4. 質疑応答

質問 IFRSの移行について、(中経公表資料の)17ページにIFRS移行による影響の要因で固定資産減損として豪州石炭やイーグルフォード・シェールなどが記載されているが、それぞれの内容と金額は？

回答 固定資産減損430億円は、減損の判定や認識の仕方がUS GAAPとIFRSで異なるもの。IFRSでは割引後のCFで減損判定するのでUS GAAPでは減損を認識しないがIFRSのみにおいて減損を認識した。430億円の大部分は豪州石炭関連の減損で、主に価格下落により、2件の鉱区について減損を認識した。イーグルフォードのシェールは、每期行うプロジェクトの長期見通しや第三者による埋蔵量評価において、これまで掘ってきた井戸元の生産実績を反映させるが、足元の実績が当初の想定を若干下回っていたことから、これを反映した結果プロジェクト期間全体の総生産量の見積もりに影響を与え減損を認識することになった。ただし、生産性向上にむけてパートナーと取り組んでおり、今後の生産性が向上すれば生産見通しも上方修正されることもあり、今後の当社の収益の改善も期待できる。カセロネスは、当社は第2四半期に減損を認識していたが、その金額は現地事業会社が第4四半期に認識した固定資産の減損の内数だったため、当社連結決算上も第4四半期に差額をIFRS決算において認識した。

質問 移行日時点におけるみなし原価適用による評価替があるはずだが、どういうプロジェクトで行われ、結果として利益の改善はどれくらいあるか？

回答 中経公表資料17ページに「IFRS移行による影響」として「一過性項目以外」の欄に減価償却負担減の金額を記載している。昨年12月のIFRS移行に関する説明会で説明した内容だが、最大要因は、マーセラス・シェールガス事業にみなし原価を適用した影響。みなし原価の適用により固定資産の簿価を落としてあり、減価償却負担が少なくなって利益に反映しているもの。

質問 みなし原価適用による簿価の減少額と14年3月期の減損額で合計でどれくらい簿価が下がったと考えればよいか？

回答 みなし原価適用による簿価の減少額については、いま手元に無いが、昨年12月のIFRS移行に関する説明会の資料をご覧頂きたい。

質問 移行日時点のみなし原価適用による簿価の減少額は変わっておらず、ここではあくまでも14年3月期に認識した減損額を記載しているということか？

回答 その通り。

質問 2点。第4四半期にかなりの一過性要因のプラスが各セグメントであるが、要因を整理願いたい。

回答 第4四半期の一過性要因は、有価証券の売却損益が370億円。固定資産売却損益が30億円、有価証券評価損が60億円程、固定資産減損が180億円、IPP事業のMTM+40億円、その他としてValeの税務関連損失の修正が+80億円程。

質問 固定資産減損の180億円減損はどのような内容か？

回答 Valeが保有するアルゼンチンのカリプロジェクトの減損が約70億円、ブラジル自動車部品の輸送会社Veloceの暖簾減損約20億円。その他細かなものの集積。

質問 各セグメントで一過性要因が発生しているが、通期で一過性要因を除く実績がどうだったかざっくり振り返って欲しい。

回答 セグメントごとにざっくり前期比増減で一過性がどのくらいあるかをご説明したい。鉄鋼製品は219億円の増益、うち一過性が前年の戻しと当期分を合わせて約100億円なので、ネットで約100億円の増益。貿易取引に係る為替損益が前期比で約+80億円あるので、残り20~30億円が実力値の増減で、主因はトレーディングの復調。金属資源は+41億円、うち前期の一過性の戻りが約+170億円、今期の一過性要因のマイナスが475億円なので、ネットで約マイナス300億円のインパクト。これを除くと300億円強のプラス。あとは、商品価格、為替、資源コストなどの要因があるので、それ以外で170億円の増益となるが、ほとんどが数量増。プロジェクトは113億円の増益。うち18億円が前期の一過性の反動で33億円が今期一過性。合計で約50億円のプラスそれを引くと約60億円の増益、約30億円の配当税効果の増加があるので、実力値は約30億円の増益、主にIPPの好調なオペレーションやFPS0リースといった内容。機械・輸送システムは16億円の減益、前期の一過性の戻りが+4億円、当期の一過性がマイナス36億円、これらを差し引いた実力が約12億円の増益。GEのエンジン開発負担増を、自動車関連や鉄道車両リースの好調が上回った。

化学品は170億円の増益。うち、前期の一過性の反動と当期一過性などで100億円、残り約70億円の増益は、アラビアメタノールの好調やその他トレーディング好調。エネルギーは320億円の増益。前期の一過性の反動減がマイナス200億円、当期の一過性が+200億円。市況要因等を除いた約36億円が実力要因。配当が多かったことが増益要因だが、数量減マイナス90億円が押し下げた。

食糧は56億円の増益、当期の一過性が26億円、前期の一過性要因の反動増が9億円、実力が約20億円の増。マルチグレインの大豆コーンなどの集荷販売が好調。その他グローバルトレーディングが堅調。食品事業は大きくマイナス94億円の減益、これは前期の一過性要因の反動減で、株の売却益がほとんど。実力では約マイナス40億円で、三井農林や三井食品の業績が振るわなかった。

CS 事業が 100 億円の増益、こちらは当期の一過性の株売却益+90 億が主な増益要因。次世代・機能推進はほぼ横ばい、こちらは前期の一過性の反動減約 110 億円、を今期の一過性要因の株売却益 140 億円が上回り、ネットでプラス。 ネット実力約 20 億円マイナスだが、TPV 事業不調、MCRM トレーディング不調などが要因。あと海外は、米州は約 30 億の実力値の増益だが、ITC や CINCO PIPE の増益、これを NOVUS などが一部打ち消した。EMEA は実力値で約 40 億円の増益とみており、オフィスビル売却益約 30 億円が主因。AP は主に鉄鉱石等の増益。

質問 650 億円の IFRS 移行による影響の部門別の内訳は？ また、USGAAP の 14 年 3 月期の一過性マイナス 80 億円は IFRS ではどれくらいになるのか？

回答 まず 2 点目の方をお答えする。 USGAAP のマイナス 80 億円、と「IFRS 移行による影響」に含まれる一過性項目の 760 億円を加えた 840 億円が IFRS ベースでの一過性要因。

1 点目のご質問だが、セグメント別の IFRS 移行による影響は、今回は開示していない。

まだ IFRS 決算が閉まってないので、全社合計値のみを概算で出させて頂いているもの。

質問 資産の売却、リサイクルが当初想定より進み、第 4 四半期は 1,000 億円くらい実行しているが、この背景と 15 年 3 月期以降の基準は？

回答 第 4 四半期で確かに進んだ。主なものは、三井石油や INPEX や Brightstar などの株式売却、及びオフィスビル売却で約 30 億円など。これらは期首からから交渉してきたものもあり、基本的には資産の保有意義の見直しや各営業本部の在り姿に照らして良質な資産に入れ替えるという基本方針のもとでリサイクルを進めたものであり、15/3 期も同様の考え方でやっていく。

質問 急にリサイクルを加速した背景は、FCF ベースの考え方がかなり社内に根付いてきたことも背景にあるのか？

回答 三井石油などは長い交渉が第 4 四半期に実を結んだ。その他、第 2～第 3 四半期にかけて更に上場株の保有意義をかなり見直して、相手と交渉したうえでリサイクルを加速した経緯あり。今後も継続したい。

質問 IPP 事業の第 4 四半期の持分損益が 35 億のマイナスとなっているが、何か特別損失が入ったのか？

回答 35 億円の赤字の理由は、パイトン 1 宛の impaired loan についてこれまで現金主義で利息計上していたが、状況が好転したことから、発生主義に認識方法を変更した。 連結の利息収支（親）が改善したのはこの要因によるもので、見合いで持分損益で支払利息のマイナスが認識されているが、この特殊要因除くと好調。15 年 3 期には関係無く一過性のもの。

質問 株主還元策に関して、還元の原資は営業 CF となるが、5,200 億円の営業 CF は資源・非資源の割合はどうなっているか。また、営業 CF の変数として何が一番大きいと考えればよいのか？

回答 手元に具体的な数字ない。

質問 印象としては、シェールなどの重たい減価償却や配当が現金で入ってくることで、純利益のウェイトが半分くらいを占めることから、営業 CF のウェイトもエネルギーが高いと考えてよいか？

回答 概ねそういうご理解でよい。

質問 Vale の REFIS に関して、第 4 四半期の 80 億円の戻りは、何故発生したのか？

回答 REFIS による支払う滞納税が法人税上損金算入可となり、第 4 四半期に修正が入ったため、これを当社として取り込んだことで約 80 億円の影響があった。

質問 AAS に投資する Oriente Copper が第 4 四半期の赤字の原因は？ また、チリの税制改正の影響は？

回答 チリの税金は、法人税率 20% を段階的に 25% に引き上げる法案が国会に提案されていると理解、もしかすると今夏頃に成立する可能性あり、その場合は当社の Anglo American Sur を中心にインパクト生じる可能性があるが、金額インパクトは現時点で非開示とさせて頂く。

AAS のマイナス要因は詳細手元がないので調べて別途ご説明する。

質問 CF について、第 4 四半期のリサイクルの割に余り FCF が出てない要因は？

15 年 3 月期はどれくらいの FCF を予想しているのか？

回答 第 4 四半期も巡航速度。working capital に係る資金支出があり若干少なくなっているが、基本的には通常の CF が出ていると理解している。

質問 今期の見通しは？

回答 15 年 3 月期は FCF 黒字を目指しているが、説明にもあった VLI への投資約 700 億円が今期にずれ込んできたため、若干赤字になる可能性もあり。

質問 今回の中期経営計画の CF の考え方だが、配当や自社株も含めた FCF の黒字化を考えているのか？ それとも FCF の黒字化の結果として配当や自社株買いが出てくるという考え方か？

回答 結果として出て来るものをご理解頂きたい。FCF の定義は今までと変わっていないが、明日の中期経営計画の説明会でお話する Recurring FCF を原資にバランスよく成長投資と株主還元バランスよくお金を配分していこうという考え方のもとで配当していくということ。FCF はあくまで（財務 CF の）配当より前の段階で決まる。

以上